

千葉市病院事業のあり方について

1 あり方検討の経緯

- ・全国的に人口減少や少子高齢化が急速に進展。医療・介護サービスの需要が増える一方、医師などの人材が不足することが予想される。
- ・各医療機関が互いに役割を分担し、医師などの人材を有効に活用することで、市内全体の医療を維持・充実させることが必要
- ・海浜病院は開設後35年目となり、施設（特に給排水設備）の老朽化が著しい。青葉病院も開設後16年目となり、今後10年以内に大規模な改修が必要になる見込み
- ・平成25～29年度の市立病院事業の決算は赤字。早急な経営の健全化が必要

これらのことから、本市の将来的な医療需要及び医療提供体制や両市立病院が抱える課題等を踏まえた今後の病院事業のあり方について、30年度より検討に着手した。

2 有識者意見

平成30年12月に有識者会議に対し、今後の病院事業のあり方について諮問を行い、5回の審議を経て、令和元年8月に、有識者会議から答申を受けた。

【 答申の要約 】

(1) 将来的な医療需要を踏まえた市立病院の医療機能

- ・現在提供されている政策的医療（救急医療、周産期・小児医療、精神医療、感染症医療、災害医療等）については、その機能を維持、発展させつつ、市立病院が引き続き担うべきである。
- ・救急医療については、市内の救急受け入れ体制の課題や今後見込まれる救急搬送件数の増加を踏まえ、体制の強化が必要である。
- ・すべての医療機能を市立病院のみで担うことは不可能であり、今の両市立病院が担っている機能の強みを活かしつつ、他の医療機関との役割分担や機能分化を図り、医療圏全体としての医療の質の向上や医療資源の最適配分による効率化につなげていくべきである。
- ・今後、医療を取り巻く環境は劇的に変化することが予想され、それを正確に予測することは困難であるが、その中であっても、医療ニーズの変化や医療技術の進歩等に、将来にわたって対応できるようなフレキシブルな体制が必要である。

(2) 医療提供体制

- ・現在の青葉病院のみで市立病院が提供すべき医療機能を提供することは、リスクが大きく困難。海浜病院の老朽化への対応として、新病院を直ちに整備すべきである。

- ・ 新病院を整備する場合、医療機能を新病院に集約することは、医療機能の充実や質の向上、人材の確保等の面で効率的、安定的な運営が見込まれるなどメリットが多い。
- ・ 千葉市の推計入院患者数がピークとなる2030年を見据え、新病院に救急医療体制を集約するとともに、青葉病院は、新病院や周辺医療機関との連携・分担を進める中で、医療ニーズが変化し、労働力人口も大幅に減少する見込みである2030年以降も含めた長期的な視点で、適切な機能・規模を選択すべきである。
- ・ 青葉病院がどのような機能・規模を選択するかは、その立地なども踏まえ、千葉大学医学部附属病院などの周辺医療機関との役割分担や関係性を明確にすることが重要であり、早急に関係者と検討に着手すべきである。
- ・ 新病院を海浜病院の現敷地内で整備することは課題が多い。現実的に別の用地を速やかに確保できることが前提になるが、その場合は、他の医療機関の配置状況や現在の海浜病院が果たしている役割なども踏まえ、様々な視点から比較評価を行った上で、建設地を選定すべきである。
- ・ 新病院の早期着工が最優先であることを考慮すると、現行の経営形態を継続することは妥当であるが、経営の健全化を図りつつ市立病院の役割を果たすために最も有効な経営形態については、継続的に検討していくべきである。

(3) 経営の健全化に向けて

- ・ 政策的医療は不採算部門であることから、安定的な医療の提供のためには、一般会計による財政的な支援を引き続き継続していくべきであるが、経営の健全化に向けた更なる取組みは必要である。
- ・ 将来にわたり安定的に医療を提供するためには、経営の健全化が不可欠であることを十分に認識し、公立病院として求められている機能や他の医療機関との役割分担を明確に整理したうえで、診療領域の構成を検討すべきである。
- ・ 経営の健全化には、病院事業管理者がリーダーシップを発揮し、経営戦略を策定・実行すること、さらに、その方針が、職員一人一人まで浸透し日々の取組みとして実行されることが重要である。本部と病院現場がコミュニケーションを取りながら、一体となって病院運営にあたられたい。

3 今後の予定

答申の内容を踏まえ、海浜病院の老朽化への対応について検討を行ったうえで、両市立病院の具体的な方向性をまとめた基本構想を令和2年度前半に策定する。